

森美術館

「六本木クロッシング2019展:つないでみる」同時開催プログラムのご案内

会期:2019年2月9日(土)ー5月26日(日) 会場:森美術館(六本木ヒルズ森タワー53階)



MAMコレクションは、森美術館の収蔵品を、
多様なテーマに沿って順次紹介する展覧会シリーズです。

MAMコレクション009:米谷 健+ジュリア

企画:近藤健一(森美術館キュレーター)

日本人とオーストラリア人のユニット、米谷健+ジュリア(1971年/1972年東京生まれ)による、ウランガラスとブラックライトを用い、緑色に光るアリの形を模した立体作品《生きものの記録》(2012年)を紹介し、オーストラリアの先住民アボリジニによる未来への警笛とも解釈できる神話「緑アリの教え」の調査を経て制作され、原水爆の恐怖に怯える男性を描いた黒澤明の映画「生きものの記録」(1955年)からタイトルを引用した本作は、放射能に対する作家の問題提起であるといえるでしょう。



米谷 健+ジュリア
《生きものの記録》
2012年
ウランガラス、ワイヤー、ブラックライト
3×3×5.2m
展示風景:「生きものの記録:米谷 健+ジュリア」
4Aアジア現代美術センター(シドニー)、2012年
撮影:Zan Wimberley



MAMスクリーンは、世界の多様な映像作品のなかから
選りすぐりのシングル・チャンネル作品を上映するプログラムです。

MAMスクリーン010:ミハイル・カリキス

企画:片岡真実(森美術館副館長兼チーフ・キュレーター)

ミハイル・カリキス(1975年テッサロニキ(ギリシャ)生まれ)は、音楽、建築などを学んだ後、映像、写真、パフォーマンスなど多様なジャンルを横断し、体感型インスタレーションへと発展させてきました。本プログラムで上映する3作品では、炭鉱跡、産業構造の変化により衰退した村、あるいは障がいのある人々が働く工場を舞台に、人間の存在、友情、労働、行動^{アクション}などに対するオルタナティブなモデルを提示しています。いずれも人々が集団で歌うシーンを通して、労働や雇用の意味、天然資源や産業とコミュニティの関係などを考えさせます。



ミハイル・カリキス
《怖くなんかない》
2016年
ビデオ
10分



MAMプロジェクトは森美術館が世界各地のアーティストと
実験的なプロジェクトを行うシリーズです。

MAMプロジェクト026:カーティス・タム

企画:近藤健一(森美術館キュレーター)

制作協力:ADAM Audio、ARCUSプロジェクト実行委員会

カーティス・タム(1987年カリフォルニア生まれ)は、自然現象、地球物理学、地質学、動物学などの分野を領域横断的にリサーチし、私たちが見過ごしがちなさまざまなものの関係を考察する、映像や音響を使った作品を制作してきました。2017年、2018年と日本に滞在し、地震や火山活動、宗教、和楽器などのリサーチを行いました。本展ではそれを発展させた、新作のサウンド・インスタレーションを発表する予定です。



カーティス・タム
《細胞調律センター》
2017年
サウンド・パフォーマンス
Courtesy:ARCUS Project Administration
Committee, Ibaraki
展示風景:「アーカスプロジェクト2017 オープンスタジオ」アーカススタジオ(茨城)
撮影:加藤 甫
*参考図版

主催:森美術館 開館時間:10:00-22:00 | 火 10:00-17:00 *いずれも入館は閉館時間の30分前まで *会期中無休

*ただし4月30日(火)は22:00まで *「六本木アートナイト2019」開催に伴い、5月25日(土)は翌朝6:00まで

入館料:「六本木クロッシング2019展」チケットで鑑賞可 一般1,800円、学生(高校・大学生)1,200円、
子供(4歳-中学生)600円、シニア(65歳以上)1,500円 *表示料金に消費税込

*本展のチケットで展望台 東京シティビューにも入館可(スカイデッキを除く) *スカイデッキへは別途料金がかかります

一般のお問い合わせ:Tel:03-5777-8600(ハローダイヤル)

プレスリリース

お問い合わせ

森美術館 広報事務局(共同ピーアール内) 担当:津原、田ヶ谷、村田

Tel:03-3571-5258 Fax:03-3574-0316 E-mail:mam-pr@kyodo-pr.co.jp

〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル